

# 給食センター 運営審議会だより

2021(令和3)年2月23日

運営審議会会長：小林理人

記録担当：二小、三小

印刷担当：久保 麻理

## 2020(令和2)年度 第3回

## 国立市立学校給食センター運営審議会

日時 2020年11月26日(木) 午後2時～午後3時30分

場所 国立市立学校第一給食センター2F大会議室

委員 出席15名、欠席委員3名、傍聴1名

事務局 4名(土方所長、宮本事務主査、山本栄養士主査、青木調理主査)

議題 (1) 事業報告について [資料1-1] [資料1-2] [資料1-3]

(2) 視察研修について [資料2]

(3) その他

議事録及び資料は  
市のウェブページ  
をご覧ください。

## 議題(1) 事業報告について

## ▶前回会議以降(9/24～11/26)の主な出来事を報告

## [資料1-1] 事業報告

10/1 牛乳業者(東毛酪農)の機械トラブルにより、ビン牛乳から紙パック牛乳に変更され、現在も継続中。今年度卒業生がビン牛乳を再実感できるよう、できるだけ早期の再開を求め業者と協議している。(※3学期から再開)

11/10 一小2年生70名がセンターを見学。実施後、「おいしい。いつもありがとう」との色紙(センター会議室に掲示)をもらい、配膳員も調理員も喜んでいる。

## ▶牛乳・給食の放射能測定結果

## [資料1-2] 放射能と産地(10月分) [資料1-3] 放射能と産地(11月分)

- ・センターによる9・10月の給食・牛乳測定の結果、不検出(検出限界値未満)
- ・外部機関による食材測定の結果、マイタケにセシウム137が検出(3.1Bq/kg)  
国の基準値(一般食品100Bq/kg、乳児用食品50Bq/kg)以下だが、使用を中止した

## 【委員からの主な質問や意見】

- Q. 紙パック牛乳への変更による製造過程での成分、殺菌方法の違いなどがあるか？
- A. ビン牛乳の殺菌温度は65℃で30分(低温保持殺菌)、紙パック牛乳は75℃で15秒(低温短時間殺菌)。市場に出回っている95%以上は高温殺菌牛乳なので、低温殺菌牛乳にこだわっている。感想としては、改めてビン牛乳のよさが浮き彫りになったので、できるだけ早くビン牛乳を復活したいと思っている。
- Q. BSE(牛海綿状脳症)発生以来、長年にわたり牛肉が給食に出なかったが、今回初めて牛肉が掲載された。大変ありがたいが、何かコメントは？

- A. BSE問題が落ち着いてからも費用面で使えなかったが、15年ぶりに給食費を上げたので、目に見える形で還元したいと思い、ビーフカレーや牛丼を出した。多摩地区の給食センター（十数市）で、牛肉を使っているのは国立市だけ。国産牛肉で個体識別もしているので、安心して食べられる。
- Q. 人工栽培のマイタケになぜ基準値を超える放射能が含まれていたのか？
- A. 基準値の50分の1であり、自然界で普通に出る濃度。測定日と実食日が近かったので、産地を変更して使うことができず、食材から外した。
- ・ビン牛乳と紙パック牛乳では味も匂いも違うので、東毛酪農（事業者）には早く直して欲しい。もしかすると本年度卒業生は（ビン牛乳を）飲めないかもしれないので、事業者を招いて学習できる機会など考えてもらえたら嬉しい。
  - ・牛肉について子ども達は喜んでおり、保護者からも「ありがたい」との声はたくさん来ている。

## 議題（2）視察研修について

### ▶埼玉県戸田市立学校給食センターの視察研修

#### 【資料2】視察研修先候補パンフレット

- ・事務局から、以下の理由で戸田市給食センター（2011年建設）視察が提案された。
- ① 敷地面積、給食提供数について、国立市の新給食センター（2023(令和5)年度開設予定）に似ている
- ② 大きな河川（荒川）に近い立地条件が、（多摩川の近くに建設される）国立市の新給食センターに類似しており、河川氾濫の浸水想定や災害対策について、今後の参考になる
- ・[事務局から] 開設時と以後の苦労点や改善点を伺い、オール電化や屋上太陽光パネルなど参考にして、国立市で建設する新給食センターについての意見・要望を寄せてほしい。

#### 【委員からの主な質問や意見】

- Q. 多摩川に近い浸水想定地域に建設される国立市の新給食センターのできる対策は？
- A. 浸水想定0.5m～3mは、1000年に1回と言われる災害。周囲より0.5m以上盛土をした上で、ボイラーや電気設備は上階に持っていくなど、できる限りの災害想定は考えている。
- Q. そばに下水処理場があることが気になるが？
- A. 臭気を遮断する緑地などの対策はしっかりしている。合流方式（雨水と汚水を同時処理）だが、1時間50ミリの降雨にも対応できる、性能の高い下水処理場である。
- Q. (国立市の新給食センターは) 災害時の炊き出しは想定されていないのか？
- A. 大きな備蓄庫を造る予定はなく、大規模災害の初期対応は想定していない。インフラ復旧すれば対応できると思う。
- Q. 審議会では当初から災害時対応が可能である公設公営方式を強く要望し、議論の末、「これまで以上の学校給食が提供できる」との説明でPFI手法を受け入れたと記憶している。新給食センターは「整備基本計画」に明記されている通りの災害時対応が可能な施設でなければならないのではないか？
- A. 自家発電装置は必須にはしていない。災害用物資の備蓄や炊き出し機能は、各地域（防災センター）にあったはず。災害対策についてはもう一度確認させてもらう。

次回：~~第4回 1/28（木）~~視察研修（※コロナ感染拡大を受け中止、書面質問に変更）

第5回 2/25（水）午後2時（予定）@第一給食センター2F大会議室（傍聴可）